

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 広島大学

## 【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

## 【構想の概要】

国際的な大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、Internationalisation at Homeを図る。

## ■ プログラムの目的・養成する人材像

### ○ 地球市民の育成

INU参加大学および広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とこれらの融合分野で、協働教育を行う。

### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせで行う。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による人材育成
- ・Internationalization at Home
- ・教員・職員の相互派遣による国際化、人的・知的ネットワークの構築

### ○ 大学のトップ・マネージメントによる大学間交流

各種プログラム実施のため、各大学のトップマネージメントのリーダーシップのもと、「理事会(年2回または電話会議)(学長・副学長)」、「総会(年2回)」、「ステアリングコミティー(3ヶ月に1回)」を開催することにより、緊密なPDCA体制を確立している。国際化は、「パートナーシップ」と「オーナーシップ」をどう調和させるかが鍵を握っているが、トップマネージメントが主導することにより、これらを融合させつつ発展させることを可能としている。

〈INU参加大学〉



〈INU学生セミナー〉



## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ Internationalization at Home

プログラム実施を通じて「学生」、「教員」、「職員」、「マネージメント」が共に「国際化」を実現するため、学生を派遣した受け入れるとともに、留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えるInternationalization at Homeを進める。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 留学支援体制の整備

留学支援のための相談窓口の開設、アドバイザーの配備などとともに、留学生が求める学習機会の整備(教材開発等)、また企業等における留学生のインターンシップ受入れの促進のための枠組みづくりを行う。

### ○ 学習支援体制の整備

長期間留学する学生については、双方の大学における学習過程や学習成果を双方の大学の指導教員により確認することのできるeポートフォリオも活用することにより、継続的に学習支援を行う。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

ダブルディグリー・プログラム、欧米における短期集中講義を継続して行うとともに、本構想により学生支援を行い、日本人学生を、中・長期のプログラムを中心に海外に派遣する。

### ○ 外国人留学生の受入れ

毎年8月に開催する学生セミナー、サマースクールに学生を受け入れるとともに、新たなサマースクール、ダブルディグリー・プログラムを実施する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	2人	23人	25人	25人	25人
学生の受入	0人	56人	58人	58人	58人

# 大学の世界展開力強化事業 取組実績 広島大学

## 【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

**地球市民の育成** INU参加大学及び広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

## 【構想の概要】

国際的大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、学生・教員の派遣・受け入れを通じて、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、特にInternationalisation at Homeを図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とこれらの融合分野で、協働教育を行う。

### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせる。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による人材育成
- ・Internationalization at Home
- ・教員・職員の相互派遣による国際化、人的・知的ネットワークの構築

〈INU参加大学〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈3月に実施したキックオフ会議〉



### ○ キックオフ会議の開催

本事業に係わる全大学のINU事業関係者、平和修士サマースクール、環境修士サマースクール、INUセミナーに関係する教職員約45名が参加したキックオフ会議を開催した。全体会議とともに、3分野のWGで本取組の全体の詳細、補助金終了後の計画に関する議論とともに、平成24年8月に開催される修士サマースクールのカリキュラムの詳細、リーディングアサイメントの決定、担当教員の分担、ロジスティックなどについて検討を行った。

### ○ 日本人学生の派遣

INU参加校の一つである米国ジェームス・マディソン大学に修士学生3名を派遣し、Spring SchoolにてJMU大学教員・本学教員が協働してこれら学生の教育にあたった。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成24年2月から3月にかけて、INU参加校の一つである米国ジェームス・マディソン大学に修士学生3名を派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成23年度は期間が短かったため実績はなかったが、平成24年度から本格的に受け入れる。

〈JMUでのSpring School〉

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3	14	25	25	25
学生の受入	0	40	63	58	58

注)H23は実績、H24以降は計画。



## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

遠隔地共同教育支援システムを導入し、関係大学間の緊密な連絡・調整を円滑に行うとともに、ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール等で使用される英語テキスト・資料の作成や学生指導等に活用する。



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 広島大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

INU参加大学および広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

## 【構想の概要】

国際的な大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、Internationalization at Homeを図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とまた「看護」などの分野で、協働教育を行う。

### ○ 大学のトップ・マネージメントによる大学間交流

各種プログラム実施のため、各大学のトップマネージメントのリーダーシップのもと、「理事会(年2回また電話会議)(学長・副学長)」、「総会(年2回)」、「ステアリングコミッティー(3ヶ月に1回)」を開催することにより、緊密なPDCA体制を確立している。国際化は、「パートナーシップ」と「オーナーシップ」をどう調和させるかが鍵を握っているが、トップマネージメントが主導することにより、これらを融合させつつ発展させることを可能としている。

〈INU修士サマースクール〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Study Abroad〉



### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された短期・長期の派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせで行う。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による日本人学生との協働人材育成
- ・Internationalization at Home

### ○ 新規プログラムの実施

新たな協力校とのプログラムの準備しており、本年度は新たに、ニュージーランド、南アフリカ、イタリア、インドネシア、台湾との大学と交流プログラムを実施する。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

ダブルディグリー・プログラム、欧米における短期集中講義を継続して行うとともに、本構想により学生支援を行い、日本人学生を、中・長期のプログラムを中心に海外に派遣する。

### ○ 外国人留学生の受入れ

毎年8月に開催する学生セミナー、サマースクールに学生を受け入れるとともに、新たなサマースクール、ダブルディグリー・プログラムを実施する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3人	143人(78人)	27人	27人	27人
学生の受入	0人	61人(32人)	66人	66人	66人

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

※( )は補助金支給対象外の学生数で内数注)H23・H24は実績、H25以降は計画

### ○ 留学支援体制の整備

留学支援のための相談窓口の開設、アドバイザーの配備などとともに、留学生が求める学習機会の整備(教材開発等)、また企業等における留学生のインターンシップ受入れの促進のための枠組みづくりを行う。

### ○ 学習支援体制の整備

長期間留学する学生については、双方の大学における学習過程や学習成果を双方の大学の指導教員により確認することのできるeポートフォリオも活用することにより、継続的に学習支援を行う。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ ホームページの作成

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sekaiinu/>

### ○ Internationalization at Home

プログラム実施を通じて「学生」、「教員」、「職員」、「マネージメント」が共に「国際化」を実現するため、学生を派遣しまた受け入れるとともに、留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えるInternationalization at Homeを進める。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 広島大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

INU参加大学および広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

## 【構想の概要】

国際的な大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、Internationalization at Homeを図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とまた「看護」などの分野で、協働教育を行う。

### ○ 大学のトップ・マネージメントによる大学間交流

各種プログラム実施のため、各大学のトップマネージメントのリーダーシップのもと、「総会(年2回)」を開催することにより、緊密なPDCA体制を確立している。国際化は、「パートナーシップ」と「オーナーシップ」をどう調和させるかが鍵を握っているが、トップマネージメントが主導することにより、これらを融合させつつ発展させることを可能としている。

〈INU修士サマースクール〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Study Abroad〉



### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された短期・長期の派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせで行う。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による日本人学生との協働人材育成
- ・Internationalization at Home

### ○ 新規プログラムの実施

オーストラリアの大学とダブルディグリープログラムの締結をしており、本年度から派遣・受入を実施する。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

ダブルディグリー・プログラム、欧米における短期集中講義を継続して行うとともに、本構想により学生支援を行い、日本人学生を、中・長期のプログラムを中心に海外に派遣する。

### ○ 外国人留学生の受入れ

毎年8月に開催する学生セミナー、サマースクールに学生を受け入れるとともに、新たなサマースクール、ダブルディグリー・プログラムを実施する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3人	143人(78人)	158人(86人)	27人	27人
学生の受入	0人	61人(32人)	71人(33人)	66人	66人

注)H23～H25は実績、H26以降は計画  
( )は補助金支給対象外の学生数で内数

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 留学支援体制の整備

留学支援のための相談窓口の開設、アドバイザーの配備などとともに、留学生が求める学習機会の整備(教材開発等)、また企業等における留学生のインターンシップ受入れの促進のための枠組みづくりを行う。

### ○ 学習支援体制の整備

長期間留学する学生については、双方の大学における学習過程や学習成果を双方の大学の指導教員により確認することのできるeポートフォリオも活用することにより、継続的に学習支援を行う。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ ホームページの作成

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sekaiinu/>

### ○ Internationalization at Home

プログラム実施を通じて「学生」、「教員」、「職員」、「マネージメント」が共に「国際化」を実現するため、学生を派遣しまた受け入れるとともに、留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えるInternationalization at Homeを進める。



# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 広島大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

【プログラムの目的・養成する人材像】

INU参加大学および広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

【構想の概要】

国際的な大学間コンソーシアムであるINUを利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、Internationalization at Homeを図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

〈INU 学生セミナー〉



欧州、米国、アジア、オセアニアにまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野とまた「看護」などの分野で、協働教育を行う。

### ○ 大学のトップ・マネージメントによる大学間交流

各種プログラム実施のため、各大学のトップマネージメントのリーダーシップのもと、「総会(年2回)」を開催することにより、緊密なPDCA体制を確立している。国際化は、「パートナーシップ」と「オーナーシップ」をどう調和させるかが鍵を握っているが、トップマネージメントが主導することにより、これらを融合させつつ発展させることを可能としている。

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Study Abroad Program〉

### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

実施形態としては、学生の属性に応じて開発された短期・長期の派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせで行う。

- ・本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による日本人学生との協働人材育成
- ・Internationalization at Home

した人材を育成

### ○ 新規プログラムの実施

オーストラリアの大学とダブルディグリープログラムの締結をしており、本年度から派遣・受入を実施する。



## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

ダブルディグリー・プログラム、欧米における短期集中講義を継続して行うとともに、本構想により学生支援を行い、日本人学生を、中・長期のプログラムを中心に海外に派遣する。

### ○ 外国人留学生の受入れ

毎年8月に開催する学生セミナー、サマースクールに学生を受け入れるとともに、新たなサマースクール、ダブルディグリー・プログラムを実施する。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3人	143人	157人	223人	
(計画人数)	(2人)	(23人)	(27人)	(27人)	(27人)
学生の受入	0人	61人	71人	72人	
(計画人数)	(0人)	(56人)	(66人)	(66人)	(66人)

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 留学支援体制の整備

留学支援のための相談窓口の開設、アドバイザーの配備などとともに、留学生が求める学習機会の整備(教材開発等)、また企業等における留学生のインターンシップ受入れの促進のための枠組みづくりを行う。

### ○ 学習支援体制の整備

長期間留学する学生については、双方の大学における学習過程や学習成果を双方の大学の指導教員により確認することのできるeポートフォリオも活用することにより、継続的に学習支援を行う。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

#### ○ ホームページの作成

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sekaiinu/>

#### ○ Internationalization at Home

プログラム実施を通じて「学生」、「教員」、「職員」、「マネージメント」が共に「国際化」を実現するため、学生を派遣しまた受け入れるとともに、留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えるInternationalization at Homeを進める。

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 広島大学

## 【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

国際大学間コンソーシアムINUを活用した、平和・環境分野における協働教育

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

INU参加大学および広島大学が共有する目標である、地球市民としての自覚を有し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成する。

## 【構想の概要】

国際的な大学間コンソーシアムであるINU(International Network of Universities)を利用して、双方向の協働教育の枠組み(ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール、学生セミナー)を、平和分野、環境分野および融合分野で実施する。これにより、大学の教育、研究、社会連携分野での国際力の強化、Internationalization at Homeを図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 大学間コンソーシアムINUを利用した大学間交流

欧州、米国、アジア、オセアニア、アフリカ、南米にまたがる国際的な大学間コンソーシアムであるINUの枠組みを利用して、本学の基本理念と密接な関連性を有する「平和」の分野、また、地球全体の問題と関連する「環境」分野と「看護」などの分野で、協働教育を行う。

### ○ 大学のトップ・マネージメントによる大学間交流

各種プログラム実施のため、各大学の学長・副学長のリーダーシップのもと、「総会(年2回)」を開催することにより、緊密なPDCA体制を確立している。また、学生セミナー10周年及び被爆70周年を記念して、平成27年8月5日に、広島市内においてINU加盟大学長等によるINU学長サミットを開催した。

〈INU 学生セミナー〉



〈INU 学長サミット〉



## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Study Abroad Program in Spain〉



### ○ 学生の語学能力、目的、履修期間などに応じた大学間交流

1年次に実施する短期の派遣プログラムをきっかけとして、学生の専門・属性に応じて開発された短期・長期の派遣・受入を伴う以下のような複数のプログラムを組み合わせる。

- ・長期に本学学生を海外派遣することにより国際的能力を取得した人材を育成
- ・海外大学学生の広島大学への留学による日本人学生との協働人材育成
- ・海外大学学生による本学教育・研究システムのInternationalization at Home

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

本構想および自己資金により学生支援を行い、日本人学生の派遣については、昨年よりは減少したものの、計画数の7倍弱の学生を海外に派遣した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

毎年8月に開催する学生セミナー、修士サマースクールに学生を受け入れるとともに、長期留学生も計画通り受け入れ、計画人数を達成した。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	3人	143人	157人	223人	178人
(計画人数)	(2人)	(23人)	(27人)	(27人)	(27人)
学生の受入	0人	61人	71人	72人	68
(計画人数)	(0人)	(56人)	(66人)	(66人)	(66人)

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 留学支援体制の整備

留学支援のための相談窓口の開設、アドバイザーの配備などとともに、留学生が求める学習機会の整備(教材開発等)、また企業等における留学生のインターンシップ受入れの促進のための枠組みづくりを行った。

### ○ 学習支援体制の整備

長期間留学する学生については、双方の大学における学習過程や学習成果を双方の大学の指導教員により確認することのできるeポートフォリオも活用することにより、継続的に学習支援を行った。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

#### ○ ホームページの作成

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sekaiinu/>

#### ○ Internationalization at Home

プログラム実施を通じて「学生」、「教員」、「職員」、「マネージメント」が共に「国際化」を実現するため、学生を派遣した受け入れるとともに、留学を全く経験しない広島大学学生に対して新たな知見、経験を与えるInternationalization at Homeを進める。